



# 冬の木々だより

2012  
冬号  
vol.3

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

## 裸木に習え

葉を落してしまった

裸木が光る

冬生まれのわたしには

この裸木たちが示す

リンリンとした気概が

何とも言えず

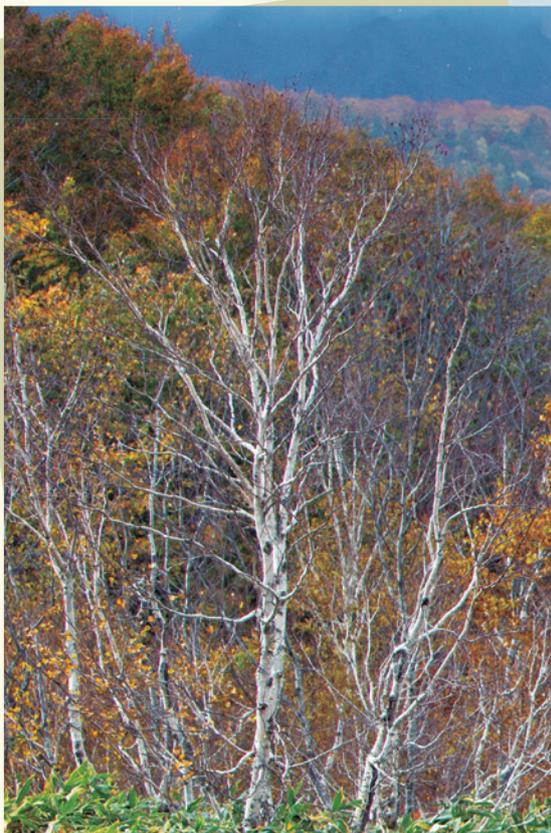
好きなのだ

ああ木木たちの

心身脱落よ

人間たちも

この裸木たちに習え



館長エッセイ

新しい詩集ができました

仕事・家族・人生に悩むすべての人に  
読んで欲しい詩

真民詩とわたし

ものづくりとして尊敬すべき

ライバルでした 森元 青芳さん

真民詩を読み解く②

絶望の淵から生まれた願いの詩  
「念ずれば花ひらく」

ちょっと手ほどき

『六魚庵天国』をもっと知ろう

開館一周年記念・特別企画展のお知らせ  
ミュージアムショップ拝見

【第三回】新しい詩集ができました

仕事・家族・人生に悩むすべての人に  
読んで欲しい詩

詩集を手にとって、この詩を全文読んでもらう、ここまで行けば、あとはその他の詩に目を向けてもらうことが出来ると思っています。

詩集さえ手に取って、中の詩を読んでもらえれば、分かりやすい言葉で（しかし深い意味が込められた）、人生の悲哀と生きる喜びを詠った真民の詩の魅力に、ほとんどの人がきつと気づいてくれると確信しています。

「そんなに頑張らなくてもいいんだよ」と言ってくれる詩、「上司がどう言おうが自分の信念を貫け」と励ましてくれる詩、「泣きそうになるのをぐつと堪えて仕事をするときに、泣きたいときは泣いたらいいんだよ」と言ってくれる詩、「夫婦の間にすれ違いがあったり、子供にやさしく接することが出来なかった時に、家族の大切さを思い出させて、家族の愛を取り戻してくれる」詩が掲載されています。もちろんサラリーマン以外の方にも、是非読んでもらいたい詩がたくさんあります。

文庫本サイズという、読みやすく、もち運びにも便利な体裁になっており、料金も手頃な価格です。皆さんもどうか書店で手に取って、お知り合いの方に紹介ください。



PHP研究所発行 定価1,000円

今回は、11月にPHP研究所から出版された新しい詩集について、宣伝を兼ねてご紹介したいと思います。

今回出された詩集「自分の道をまっすぐゆこう」は、30代から50代のサラリーマン世代に向けて編集された文庫版の詩集です。

坂村真民の詩集は、これまでたくさん出版されていますが、「サラリーマン」を主要な対象にした詩集は初めての試みです。

PHP研究所の編集者が設定したテーマは、「人生」、「仕事」、「家族」、「人生の苦楽」、「絆」、「自然」、「祈り」、「希望」の8つであり、30代から50代のサラリーマンが、日々関わりのあるテーマとなっています。

このテーマに沿って、編集者と私が議論をしながら取捨選択し、最終的に90篇に絞り込みました。サラリーマンが会社や家庭で、悩みながら毎日を生きてゆくうえで、必ずや参考になる「坂村真民のメッセージ」がいっぱい詰まった詩集になりました。

編集に際して、私が一番苦心したのは、これまで二度も坂村真民の詩を読んだことがない人や、坂村真民の名前すら知らない人達に、書店でいかにしてこの詩集を手にとってもらうか、ということでした。そのためには、まず題名が心に響くものでないとダメです。

題名の「自分の道をまっすぐゆこう」は、「時間をかけて」という詩から採ったもので、坂村真民の詩の中で私が一番好きな詩です。

私自身がサラリーマン時代に、毎日仕事に押し流されそうになりながら、最後の抛り所としていつも読んでいた詩でした。

時間をかけて

あせるな

いそぐな

ぐらぐらするな

馬鹿にされよと

笑われようと

自分の道を

まっすぐゆこう

時間をかけて

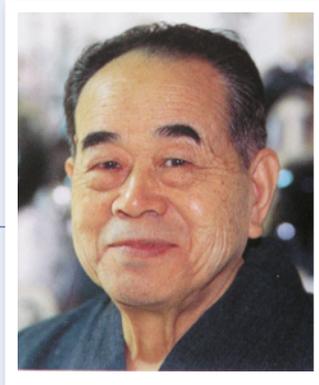
みがいてゆこう

という詩です。

この題名から何かを感じてもらい、

# ものづくりとして尊敬すべき ライバルでした

もりもと せいほう  
森元 青芳さん(84歳)



陶人形作家・森元青芳さんと真民さんの縁は、真民さんの砥部移転を機にさらに深まった。真民さんの詩や人柄に触発されて生まれた人形には、森元さんの、そして真民さんの祈りが込められている。

## ◆たわいない会話でくつろぐ

真民さんが工房に来られても、私が仕事の手を止めることはありませんでしたから、イスに座って私の作業を見つめる真民さんとはとりとめのない話ばかり。芸術論のような難しい話をした覚えはありません。たわいない会話をしばらく交わし、「それじゃあ」と帰って行く、そんなお付き合いでした。

一度、真民さんが「弟子入りしようか」ともらしたことがあります。即座に「あなたは詩を作っていたほうがいい」と返事をしましたら、破顔一笑。あの時のことは忘れられません。

## ◆出会いから生まれた人形たち

私は昭和3年3月3日に伊方町いかたちょうで生まれました。この「タンポポだより」が三号というのも何かの縁ですね。雛祭生まれのせいでしょうか、粘土を手に載せ



かたわらに「念ずれば花ひらく」人形が置かれた青芳窯の真民碑(67番)

ると自然に指先から人形が生まれま

す。昭和37年に砥部で「青芳窯」を開いた当初は食器なども作りましたが、人形は若い頃から作っていました。

ある時、木目込人形作家の女性が、当時は宇和島に住んでいた真民さんを伴って工房にやってきました。それが真民さんとの出会いです。真民さんは私の人形を気に入ってくださり、私も、真民さんの詩とその強い創作意欲に刺激されて多くの人形を創りました。詩作、作陶と分野は異なりますが、ものづくりという点では尊敬すべきライバルという存在でした。

## ◆詩に込められた祈り

やはり熱烈な真民ファンの稲荷喜久夫さんを交えた家族ぐるみのお付き合いが続きました。明浜あけはまの野福峠のむくとうげでのお花見、朴の開花期には近くの山、紅葉狩りは別子べっしへと、四季折々の風情を楽しみ、詩碑の建立で山口や



工房に掲げられたふたりの写真は、平成11年に横浜の宝積寺で撮影された

愛知にご一緒したほか、シンガポール、タイにも行きました。季節が移り変わるたびに、今もそれ

らの日々が懐かしく蘇り、共に感動できないことを寂しく思います。

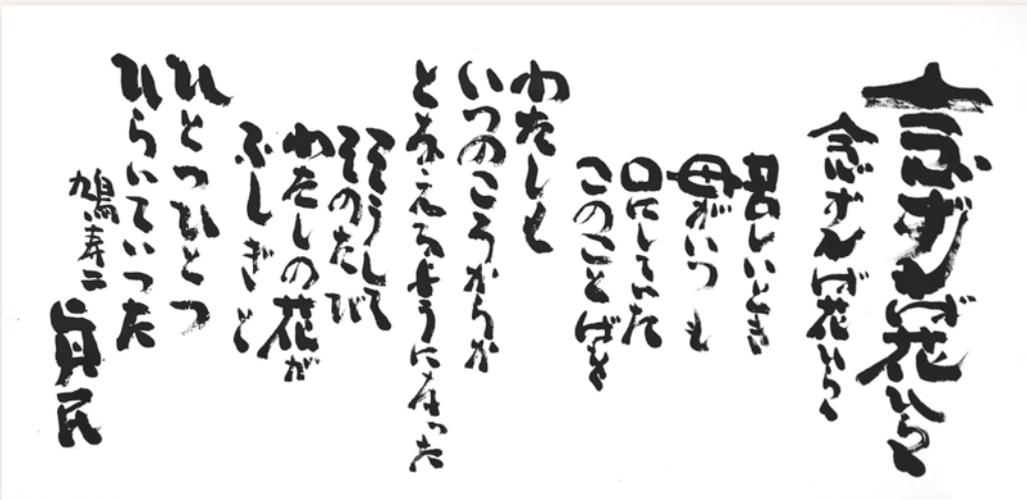
旅先でも朝3時起床と、真民さんはいつも深い祈りの中におられました。人と自然を愛し、貧困や争いがなくすることを願っていた真民さんです。その詩は、悲しみや苦しみを癒し、生きる力を与えてくれる。真民さんが詩作を続けた年齢まで、私にはまだ10年以上あります。これからは心をこめて作陶に励みたいと思っています。



▲「念ずれば花ひらく」「両手の世界」「幸せの帽子」などが真民詩から生まれた。人形と書による「二人展」も各地で開催。写真は「両手の世界」

このはななくやひめ  
▶開花亭の100番碑に「木花開耶姫」を作ってほしいと依頼された青芳さん。「わしゃ、まだこの姫さんに会ったことないんじゃが」と言いながらも、たおやかな女人像が誕生した

# 絶望の淵から生まれたい願いの詩 「念ずれば花ひらく」



念ずれば花ひらく

念ずれば  
花ひらく

苦しいとき  
母がいつも口にしていた  
このことばを  
わたしもいつのころからか  
となえるようになった  
そうして  
そのたび  
わたしの花が  
ふしぎと  
ひとつ  
ひとつ  
ひらいていった

この詩は、昭和30年、真民が46歳の時に目を患い、字も見えなくなり絶望の底にあったときに生まれてきた詩です。眼を患った原因は、宗教家あがらふ暁鳥敏氏の本の中にあつた

「疑えば花ひらかず

信心清浄なれば 花ひらいて

仏を見たてまつる」

という言葉の原典を求めて、仏教の経典を一字一句探して読むという「難行」を自分自身に課した真民は、「大藏経」を3回読むという「無謀な苦行」を行いました。結局見つけられず、精神的にも肉体的にも疲労困憊し、ついに左目がまったく見えなくなるまで目を悪くしたことにあります。

その時の様子を真民は『詩集 念ずれば花ひらく』（サンマーク出版）の中で、「M眼科は名医だったので、朝早くから多くの患者が、順番を待つていた。わたしも番を待つ間、近くの神社にいた。大きなモチの木があり、赤い実がたくさん落ちていた。その赤い実を見ていると、母のことが思い出された。母の名は「種」といったからだ。母の労苦に報いることなく、このような病気になることを、深く思い悲しんでいた。

その時、生まれてきたのが、この詩で

あつた。そうした絶望の淵から生まれ出たことを思う時、この詩は神から授けていただいたのであることが、あとになつてわかつてきた。

作品というものは不思議なもので、苦しんでいる時は暗い詩になるかと思いがちであるが、ふと流星のように、明るい詩が生まれたりして、落ち込んでいた魂を奮起させてくれ、体の病も治つたりする。」と書いています。

「念ずれば花ひらく」という言葉は、真民が小さい時、5人の子を残して父親が急逝したため、未亡人となつた母親が苦しい生活の中で自己を激励するために、念仏のようにいつも言っていた言葉でした。

「念ずるといふのは、前向きに生きようとするのであつて、希望なのである。どん底に落ちても、念じながら這いあがってくる不屈の魂である。」（『詩集 念ずれば花ひらく』）というように、この詩は、生きることの悩み、苦しんでいる人たちへの、励ましの詩であり、前向きに生きるための「願いの詩」なのです。



ちよつと  
手ほどき

# 『六魚庵天国』をもっと知ろう

『六魚庵天国』は真民さんの最初の詩集です。現在行われている企画展「三瓶時代の坂村真民」『六魚庵天国』の世界」(平成25年3月3日まで)をいっそう理解していただくために、誌上ミニ講座をお届けします。

## 女子教育の理念に賛同して

戦後、朝鮮から引き揚げて一旦九州の母親の所に落ち着いた真民さん一家は、職を求めて四国の西岸・三瓶町<sup>みかめちやう</sup>に移住しました。真民さんは、その経緯を次のように語っています。



※1 愛媛県の西海岸の静かな美しい町でした。そこには私立の小さい女学校がありました。汽船の一つといわれた山下汽船の社長山下亀三郎氏で、自分の今日あるのはお母さんのおかげだ、お母さんのような子女を養成する学校を建てたいと、お母さんの里に女学校を建てられたのです。わたくしもこの自分があるのはまったく母のおかげであ

り、したがって女子教育は初めからわたくしの念願でもありましたので、この設立の由来を聞いて大変感動し、四国に渡る決心をしたのであります。

真民さん37歳の時のこと。母の恩に報いるために設立された女学校の理念が、真民さんの気持ちとマッチしたのです。

## 「六魚庵天国」の真骨頂

家族5人(亡くなった娘・茜ちゃんを含めると6人)の三瓶での暮らしは、極貧ともいえるほど苦しいものでした。

そんな中、真民さんは歌から詩へと方向転換をし、詩人としてのスタートを切ります。その頃の作品は、あまたの真民詩の中でも、ひときわみずみずしい輝きを放っています。

真民詩のよき理解者・岩野喜久代さんは、詩集『六魚庵天国』について、「素純<sup>※2</sup>なしんみんさんの本質をまことによく表白して、清麗でつましく、悲痛を湛えた中に、純粋な愛のまことが縦糸となつて

貫いている。…詩人としての出発に白金の筋金を入れたものと言える。」と書いています。

この時代の代表詩「六魚庵哀歌」には、幾度も幾度も「かなしみ」という言葉が登場しますが、岩野さんはこの言葉を次のように読み解いています。

「真民さんのこの悲しみはただ生活苦に疲れはてた人の、絶望のコトバではない。…宗教的なみ仏の大悲に通じる悲しみであるように思える。何を見ても悲しいのである。み仏のみ心は大悲というコトバが端的に現わしている。衆生をみる眼は慈しみと共に悲しみに溢れているのである。…人は悲しむ時、もつとも純粋な気持ちになれる。すべての欲情は悲しみの涙に洗い流される時、清らかにまた爽やかである。」そして、岩野さんは真民さんの心の裡に

迫ります。「財もない、家もない、食もない…愛する家族を抱えた真民さんの心は、かなしみでいっぱいだったろう。しかしその眼を家族から転じて世間を見る時、また、大きな悲しみが真民さんの心を捉える。自分は強くならねばならぬ、世を清くせねばならぬ、み仏のみ心を普く人々に伝えねばならぬ。そう自らに言いきかせて、悲しみを進んで受容し、自らの精神の支柱としている。」と。

## 六魚庵哀歌

1  
悲しんで帰ってきた父を  
とりかこんで迎える子らよ  
父のかなしみを  
生きてゆくために  
どんなに苦しんでいたかを  
いつかは知ってくれる時があらう  
つめたくなつた飯を  
ひとり食っている  
涙がにじんできると  
父ちゃんおそかつたね  
父ちゃん何してたのと  
かわるがわる尋ねる子らよ  
慰めてくれるのはお前たちだけ  
お前たちだけのために何もかも我慢して  
明日もまた働こう  
あんなに非難されようとも  
どんなに鞭打たれようとも  
敢然と太刀打ちできる  
強い人間になりたい  
強くなるならねばならぬ  
強くなるように折らねばならぬ

2  
かなしみは  
わたしを強くする根  
かなしみは  
わたしを支えている幹  
かなしみは  
わたしを美しくする花  
かなしみは  
いつも枯らしてはならない  
かなしみは  
いつも滲まえてはならない  
かなしみは  
いつも嘔みしめてはならない



「六魚庵天国」  
ポストカード3枚セット(315円)

三瓶時代に作られた人気の詩「飯台」「あの時のこと」を「六魚庵哀歌」を選びました。坂村真民記念館ミュージアムショップでお求めください。

※1 昭和49年10月放送「NHK人生読本」より 随筆集「念ずれば花ひらく」(サンマーク出版)所収

※2 岩野喜久代著「さかむらしんみんさんの風光」(仏教タイムス社)より



坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社  
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

ひとりひそかに  
深海の真珠のように  
ひとりひそかに  
じぶんをつくってゆこう



医療法人 誠志会  
砥部病院

〒791-2114 愛媛県伊予郡砥部町麻生40-1 TEL089-957-5511



10年程前に「本気・本腰・本物」の話を開花亭で拝聴した。

その時、真民先生は、私と写真を撮りにくるだけの人がいるんだよとおっしゃった。

自分自身も、ついつい、そんなご縁で終わってしまった人もいる。

どこからともなく飛んできて、根をおろしているタンポポの存在を

じっと見つめてやる。その温かい心と眼を養いたい。

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006

http://www.nagiso.co.jp/ メール kao@nagiso.co.jp

最新刊!

定価=3675円(税込)

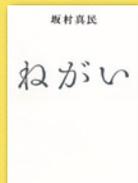
決定版・詩墨集!



筆の詩墨の花

サンマーク出版

坂村真民の本

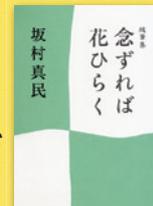


特別版詩集!

復興への  
ねがいをこめて—。  
定価=998円(税込)

随筆集 念ずれば花ひらく  
随筆集 めぐりあいのふしぎ  
随筆集 愛の道しるべ

定価=各1890円(税込)



いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 宇宙のまなざし

詩集 二度とない人生だから



刊行後14年で  
9.3万部の  
超ロングセラー!

詩集 念ずれば花ひらく

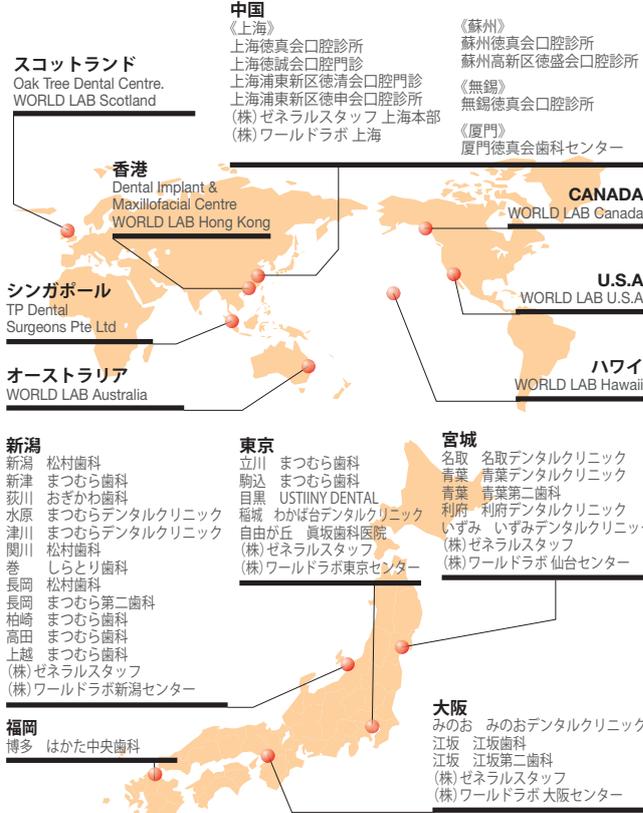
定価=各1050円(税込)

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 http://www.sunmark.co.jp  
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

# 医療法人 徳真会グループ

「医療は人なり」の診療概念をもとに患者第一主義の歯科医療グループです。  
国内外34ヶ所の歯科医院を展開し、年間80万人の治療に携わっております。



**新潟**

- 松村歯科 新潟診療所 ☎025-201-1885
- まつむら歯科 新潟診療所 ☎0250-24-6688
- おぎかわ歯科 ☎0250-23-4880
- まつむらデンタルクリニック 水原診療所 ☎0250-62-2151
- まつむらデンタルクリニック 津川診療所 ☎0254-92-0150
- 松村歯科 関川診療所 ☎0254-64-1201
- しらとり歯科 ☎0256-72-1771
- 松村歯科 長岡診療所 ☎0258-28-4108
- まつむら第二歯科 (長岡市) ☎0258-31-7202
- まつむら歯科 柏崎診療所 ☎0257-20-0310
- まつむら歯科 高田診療所 ☎025-521-6780
- まつむら歯科 上越診療所 ☎025-522-6001

**宮城**

- いすみデンタルクリニック ☎022-253-1588
- 青葉デンタルクリニック ☎022-348-2125
- 青葉第二歯科 ☎022-348-1085
- 利府デンタルクリニック ☎022-766-4130
- 名取デンタルクリニック ☎022-381-0921

**大阪**

- 江坂歯科 ☎06-6386-0233
- 江坂第二歯科 ☎06-6310-7660
- みのおデンタルクリニック ☎072-749-2080

**東京**

- まつむら歯科 駒込診療所 ☎03-3949-8818
- まつむら歯科 立川診療所 ☎042-538-1088
- USTINY (アスティニー) ☎03-6431-8633
- わかばデンタルクリニック ☎042-350-5671

**福岡**

- はかた中央歯科 ☎092-892-5134

**中国**

- 厦門徳真会歯科センター ☎86-592-229088
- 上海徳真会口腔診所 ☎86-21-5208-0208
- 上海徳誠会口腔門診 ☎86-21-5340-0290
- 上海浦東新区徳清会口腔門診 ☎86-21-5030-7858
- 上海浦東新区徳申会口腔診所 ☎86-21-6856-1040

- 蘇州徳真会口腔診所 ☎86-512-6763-5720
- 蘇州高新区徳盛会口腔診所 ☎86-512-6803-2501
- 無錫徳新会口腔診所 ☎86-510-85281121
- Branemark Osseointegration Center ☎86-21-6289-8101

**株式会社ワールド・ラボ**

- 新潟センター ☎0250-23-2009
- 大阪大阪センター ☎06-6190-2660
- 仙台センター ☎022-348-1206
- 東京センター ☎03-6431-9239
- WORLD LAB U.S.A. ☎1-949-727-0121
- Ultimate Styles Dental Laboratory ☎1-949-727-0822
- 徳真会歯科制作(上海)有限公司 ☎86-21-5270-1325

**株式会社ゼネラルスタッフ**

- 本社 ☎025-201-1183
- 新津本部 ☎0250-25-2016
- 東京本部 ☎03-6431-9809
- 大阪本部 ☎06-6310-6066
- 上海本部 ☎86-21-6340-0316



医療法人 徳真会グループ

徳真会

検索



www.tokushukai.or.jp

## 坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、砥部焼干支や真民グッズなどの記念品を贈呈します。

**パスポート会員** 特典 会員証で入館無料1人 ほか  
年会費2000円

**一般会員** 特典 会員証で入館無料1人 ほか  
年会費5000円

**特別会員** 特典 会員証で入館無料2人 ほか  
年会費10,000円

**法人会員** 特典 会員証で入館無料2人、  
観覧券10枚贈呈 ほか  
年会費10,000円

詳しくはホームページをご覧ください 坂村真民記念館 友の会

〔編集後記〕

タンポポだより冬号をお送りします。1月6日は真民の誕生日です。来年のこの日は丁度「友の会会員限定の日曜講座」の開催日に当たり、会員の皆様と一般の方も加えて、さやかな会を計画しています。お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、どうぞ記念館にお越し下さい。準備の都合がありますので、出席される方は事前にご連絡ください。

タンポポだより vol.3 冬号

平成24年12月1日発行 表紙写真：西澤孝一  
発行元／坂村真民記念館友の会事務局  
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内  
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)  
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日  
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、  
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり